

氏名 竹 本 文 夫

学 位 の 種 類 医 学 博 士

学 位 授 与 番 号 乙 第 1 1 4 6 号

学 位 授 与 の 日 付 昭和 55 年 12 月 31 日

学 位 授 与 の 要 件 博士の学位論文提出者  
(学位規則第 5 条第 2 項該当)学 位 論 文 題 目 Glucose-6-phosphatase ultracytochemistry in  
chronic hepatitis and hepatocellular carcinoma  
(慢性肝炎と肝細胞癌におけるグルコース 6 フォスファターゼ  
の超微細胞化学)第 1 編 Ultracytochemical changes of glucose-6-  
phosphatase activity in degenerative  
hepatocytes— Application of glucose-6-  
phosphatase ultracytochemistry to human  
liver biopsy specimens  
(慢性肝炎の変性肝細胞におけるグルコース 6 フォス  
ファターゼ活性の超微細胞化学的变化 —ヒト生検肝組織  
へのグルコース 6 フォスファターゼ超微細胞化学の応用)第 2 編 Glucose-6-phosphatase ultracytochemistry  
on a human hepatocellular carcinoma  
(ヒト肝細胞癌のグルコース 6 フォスファターゼ超微細  
胞化学)

論 文 審 査 委 員 教授 木村 郁郎 教授 大藤 眞 教授 小田 琢三

## 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

グルコース 6 フォスファターゼを指標として、慢性非活動性肝炎、慢性活動性肝炎、分化型肝細胞癌につき超微細胞化学的観察を行った。本酵素活性は、核膜腔、滑面・粗面小胞体腔に陽性であり、他の細胞内小器管では陰性であった。慢性活動性肝炎時の変性肝細胞で、拡張・空胞化した小胞体では、活性が低下・消失していた。しかし核膜腔は変性の程度にかかわらず正常の活性を示した。これらのことより、形態と機能の密接な関連性、核膜と小胞体の機能的相異などが推測された。本法を応用した分化型肝細胞癌の 1 例では、

核膜腔の本酵素活性が多く、肝細胞で消失・脱落していた。また小胞体腔にも細胞によって活性の差が見られた。さらに細胞質内に本酵素活性陽性の小胞体の集中を示すミエリン様構造物が観察された。これらは今回観察した分化型肝細胞癌の特徴的な所見であった。

### 論文審査の結果の要旨

本研究は慢性肝炎並びに肝細胞癌における変性肝細胞のグルコース 6 フォスファターゼ活性について超微細胞化学的観察を行ったものであるが、従来十分確立されていなかったヒト肝細胞についてその特徴的な活性の変動を認め重要な知見をえたものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位をうる資格があると認める。